

北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第525号 平成25年4月9日

替え玉優勝

先月（3月）10日、神奈川県小田原市で行われたマラソン大会で、市の男性職員（23歳）が、今春採用予定の後輩の男性（22歳）の替え玉として走り優勝するという、誠にドジな、しかし笑えない事件がありました。

この事件の事は、新聞等でも報道されていますのでご承知の方も多いと思います。男性は、当然の事ながら優勝を取り消された上、市への採用も保留となりました。また、市の男性職員も処分されるようです。

市への採用が保留された男性がその後どうなったのかは承知していませんが、若気の至りとはいえ、その代償は誠に大きいものがあります。

このマラソン大会は、二宮尊徳生誕200年を記念して昭和63年に第1回大会が開催されたもので、今年は26回目を数え、約1900人のランナーが参加しています。

二宮尊徳という人は、薪を背負いながら本を読む姿で有名ですが、江戸時代後期の思想家であり農政家です。また、私利私欲に走るのではなく社会に貢献すれば、いずれ自らに還元されるという「報徳思想」を説いたことでも良く知られています。この二宮尊徳の遺徳を偲んで開催されているマラソン大会で、替え玉ランナーが優勝するという椿事に、地元では「尊徳翁の面汚しだ」という怒りの声が上がったといいますが、それも当然の事だと思います。

ところで、どうして替え玉走者が優勝するという事態になったのでしょうか。

当事者の二人は、同じ高校の陸上部の先輩後輩の関係だそうです。先輩の市職員は市役所の陸上班に所属していて、当日は他の選手のサポートの為に会場にいたのだそうですが、後輩の男性が足に痛みがあり出場を辞退したいと申し出た際、先輩の市職員が代わりに走ろうかと持ちかけたようです。後輩の男性は入賞しない事を条件に承諾したとの事ですが、結果は、優勝してしまったという訳です。

替え玉という不正行為が許されない事はいう迄もありませんが、それでも、表彰式に出ないか、優勝を辞退すれば、こんなにも大事にはならなかった筈です。

2人とも軽いノリでやってしまったのかも知れませんが、不正行為に対して「見つからなければ良い」という判断基準の低さはいかに及ばず、自分は走ってもいないのに表彰台に上がってしまうという、その判断力の鈍さには呆れるばかりです。

法を遵守すべき公務員になろうとしているにもかかわらず、この程度の判断基準しか持ち合わせていないというのなら、仮に採用が取り消されても文句はいえないでしょう。

今回の一件について、「採用の取り消しは可愛そうだ」という声が聞こえて来そうですし、「男性の採用を取り消すなら先輩の市職員はどうするのか。バランスを欠くのでは」という意見もあるでしょう。既に小田原市の判断は示されていると思いますが、どのような結果であれ、当事者の二人には猛省していただきたいものです。

(塾頭：吉田 洋一)